

# 教官からの近況報告

山本 一

卒業生の皆さん、お元気ですか。キャンパスが角間に來てから、気軽に立ち寄っていただきにくくなり、ちよつと残念です。

教育現場におられる方々は指導要領改訂で大変だと思ひますが、教育学部の方でも組織の衣替えや教員免許法の改定にともなつてカリキュラムが何度も変わり、対応に追われています。私について言つと、しばらく加藤先生にお願ひしていた小学校免許の専門科目「国語基礎（書写を含む）」の書写以外の部分を、今年度からまた担当することになりました。以前私のこの授業を取つていた人は覚えておられると思いますが、あの頃は「文学概論」とか「文学」などとしてやつていたことをアレンジして対応しましたので、とくに国語の免許を取らない学生さんにとつてはちよつと内容が難しかったかもしれません。今回は、自分の専門の歴史的なことは加味しながらも、「ことは」について基本から考えてみる授業にしようと思ひ、加藤先生ほかの皆さんに教えていただきたいな

ら新たに授業案を作りました。

一年生前期対象なので、ともかく大学四年間で抵抗なく本を読む習慣を身につけてもらいたいと思ひ、読みやすく買ひやすい新書版や文庫本の参考文献をたくさん紹介して、自分に合ひそうなものを探して一冊でも読むようにと毎回言ひました。実は無駄かなと思つていたのですが、最終試験の答案を見ると、案外多くの学生が参考文献を読んでくれたようで、まあ成功かなと思つてゐます。(紹介するからには目を通さなければいけないので、こちらでも大変でした。)

大教室講義は一方通行になりがちなので、アンケート風・クイズ風の提出物を、毎回ではないですが講義の後に少し時間を設けて提出させ、その回答に触れながら次回の話を進めるようにしてみました。私がわざと作つた意味不明の文を、わかる形に直せとか、わざと下手に作つた短歌を、自由に添削せよとかいうテーマも出しました。次にあげるのは前者の課題に使つた「意味不明の文」です。

《麵のゆで方で左右されますが、本職のラーメン屋さんと素人の違いです。》

いかにも変な文ですが、実際にこのタイプの文をうつつかり書いてしまふことは、(内容がもつと複雑で抽象的な場合には) ままあるものです。「テストではないので正誤は問わない」として提出させましたが、いちおう私が回答例として想定したのは、

《ラーメンの味は麺のゆで方で左右されます。ここに、本職のラーメン屋さんと素人との違いがあります。》

のように、「ラーメンの味」を主題として明示した第一文と、第一文との論理的関係を明確にした第二文からなる、二文の文章にしてみます。ほかに

《本職のラーメン屋さんと素人との違いは、麺のゆで方でわかります。》

というシンプルな直し方も有り得るし、

《ラーメンの味は麺のゆで方で左右されますが、本職のラーメン屋さんと素人との違いはやはりスープの味でわかります。》

のように、「が」の逆接にこだわって、後半に勝手な情報を入れるという直し方もあってよいと思っていました。

実際には、上の三つのタイプの回答もかなりあった（最後のタイプは少数でしたが）のですが、意外に目立ったのが、

《本職のラーメン屋さんと素人との違いは、麺のゆで方で左右されます。》

というタイプです。これは文の形としてはおかしくありませんが、「違い」が「左右される」に受けられているのは落ち着きません。「違い」に対しては、「わかる」「（に）あらわれる」などの語がより親和性を持つと考えられます。

学生の回答をナマでは使わず、上のようにタイプに分けて、次の回のはじめにコメントを加えましたが、専門的（理論的）な理

解がなければわかりやすい説明もできないことを痛感して冷や汗をかきました。一方、最終試験の回答で、「今まで自分の作文を先生に直されることはよくあったが、自分が直す立場に立ったことはなく……」というような意味のことを書いていた学生もいて、講義に変化をつける工夫程度のつもりだったものが、教官にも学生にも結構「マジ」な問題になってしまったようです。

以上、今年度の講義のごく一端をご紹介しました。これを読まれた方、それぞれのお立場からご意見・ご感想などお聞かせいただければと思っています。

（本学教官）

